



◀小川に潜むアズマヒキガエル。擬態が得意で周囲の環境に体の色を合わせます。(クマゲラの森で)

▼ノロ川でえさを探していたキセキレイ。水辺を好むセキレイの仲間でも、標高の高い溪流沿いに多く生息する種。



森吉山麓の動植物

監修：NPO森吉山ネーチャー協会

5月から6月にかけて見られる奥森吉の動植物をご紹介します。写真の撮影場所はノロ川流域を中心とした森吉高原。林床に咲く可憐な山野草、小さな生態系の中の生き物たち。一度会いに出かけてみませんか。

●ガイドについてのお問い合わせは
市役所商工観光課へ ☎62 - 6639



◀カタクリ



▶発芽したブナの種。運の悪い種だけが数百年の命を持つこととなります。



エンレイソウ

▶なめらかなブナの木肌。ほおをあてるとひんやりとします。こけがつかずまっすぐ成長するブナの大木が、ヘビの侵入を防ぐことからクマゲラの営巣木に使われることが多いようです。



▼手のひらの葉は「おとしぶみ」。ブナの森を歩くと、くるくる巻かれた葉っぱが落ちていきます。これはゾウムシの仲間・オトシブミの卵が産み付けられた「ゆりかご」。昔の恋の手紙にたとえた名称も風流です。(ヒバクラ登山コースで)



◀タムシバ



▶エソエンゴサク



▶タチツボスミレ

▼ブナの森で雪消えとともに羽化し、鳴き出すエゾハルゼミ。木の上でカエルが鳴いているように。緑がかった褐色で、ヒグラシに似ています。



◀7ヶ月を越える大型のミヤマクワガタ。日本最大級。暑さに弱く、里山ではこんなに大きくなりません。森吉山麓の植生や気候などの環境が適しているためと言われています。(ノロ川に至る混生林で)



▼クロサンショウウオと卵のう。流れのない湿地の木の枝などに産み付けられています。中には10個から100個ほどの卵が入っています。(ノロ川・クマゲラの森で)



▶木道の下から顔をのぞかせたヤマカガシ。オリブ地に赤黒のまだら模様が特徴です。おもにカエルを捕食します。(クマゲラの森で)



◀オオバキスミレ



◀ミヤマカタバミ